

## 船旅

先日、点字雑誌『旅』200号記念座談会でT夫妻の船旅の話聞き、私も船に乗りたくなってしまいました。そこで3月末、友人と香川県の金刀比羅宮に行った帰りに愛媛県西条市の東予港から大阪南港まで一晩の船旅を楽しんできました。

東予港の東予はその字のごとく、伊予国の東にあたります。現在は西条市となっていますが、以前は東予市、そして元々は壬生川町でした。現在の西条市は面積約510km<sup>2</sup>。東西最長距離約30km、南北最長距離約26km。愛媛県内では、久万高原町、西予市に次ぐ第三位の面積を有しており、西日本最高峰の石鎚山、北には瀬戸内海と、海と平野と山が揃った風光明媚な町です。

この西条市にある東予港から利用したのは四国開発フェリー（オレンジフェリー）の「おれんじおおさか」。2018年就航ですべての客室が個室の快適な豪華フェリーだと聞き、2ヶ月前に予約してから乗船が楽しみでなりません。四国開発フェリーには今回乗船した「おれんじおおさか」以外に八幡浜（愛媛）から臼杵（大分）を結ぶ「おれんじ九州・四国」と新居浜（愛媛）から神戸（兵庫）を結ぶ「おれんじホープ」の3航路があります。「おれんじホープ」は貨物が主体のカジュアルフェリーです。

私は少しでも事前に情報を得ようとネットで検索していると長距離フェリーの船内の様子を詳しく紹介しているYouTubeチャンネルをみつけまし

た。You Tubeの動画の中には映像だけで私たちには様子がわからないものがたくさんありますが、そのチャンネルの動画はどれも声でたくさん解説されていて全盲の私にも弱視の友人にも船内の様子がよくわかりました。大きな船に乗るときはYou Tubeの動画で「予習」するのもよさそうです。

当日は出港2時間前の20時に乗船。一步船内に入るとそこはまるで高級ホテルのよう。案内所で鍵を受け取って音声案内と点字表示のあるエレベーターで5階の和室（9畳。定員2〜4名。洗面台・テレビ付き）へ。きれいな部屋に驚きつつも、荷物を置いてすぐ船内探検に出発しました。大きな船ですが、動画を見て、予習していたので移動もスムーズです。船内にはホテルのロビーのようなパブリックスペース、展望浴場やマッサージチェア、ゲームコーナーなど誰もが楽しく快適に過ごせる設備が充実していました。触知案内図、階段やトイレ入り口の点字表示や警告ブロックなどもありました。ただ部屋番号の点字表示はなかったのでTさんの話を思い出して自室のドアノブに紐をくくりつけて目印にしました。

4階のレストランで盲導犬を飼養しているご夫婦に声をかけられ、夕食をともしました。このレストランの名物は「宇和島鯛めし」。天然よりもおいしい？高級魚である、地元宇和島の養殖ブランド真鯛の「鯛一郎くん」が使われているそうです。私以外の3人は鯛めしを、なぜか私はカツカレーを注文しました。

出会った盲導犬を使用している夫婦は文豪・夏目漱石と『坊っちゃん』を巡る旅と題して、松山を旅した帰りでした。小説『坊っちゃん』の冒頭は、

親譲りの無鉄砲で小供の時から損ばかりしている。小学校に居る時分学校  
の二階から飛び降りて一週間ほど腰を抜かした事がある。なぜそんな無闇を  
したと聞く人があるかも知れぬ。別段深い理由でもない。

と有名です。四国に教師として赴任してきた江戸っ子の坊っちゃんが一本人な  
性格から様々な事件を起こし、また巻き込まれる姿が描かれています。坊っ  
ちゃんを通して夏目漱石の欺瞞に満ちた社会への清新な反骨精神がうかがえる作  
品です。

松山には坊っちゃんの小説の舞台になった「松山中学校跡」や最初に泊まっ  
た宿である山城屋のモデルになった「きどや旅館跡」などがありますが、とく  
にゆかりの深い場所が「道後温泉」です。日本三古湯のひとつと言われている  
道後温泉には小説の中で坊っちゃんが湯の中で泳いでいたことへの警告から貼  
られた「坊っちゃん泳ぐべからず」の木札（左図）や夏目漱石が正岡子規と一  
緒に利用した部屋「坊っちゃんの間」があります。坊ちゃんファン、漱石ファ  
ンなら一度は訪れたい場所です。そのほかにも小説に登場するマッチ箱のよう  
な汽車は路面電車「坊っ  
ちゃん列車」として、漱  
石も食べた「湯晒団子」  
は「坊っちゃん団子」と  
して松山を代表する名物



道後温泉の木札

のひとつになっています。

お二人の松山での旅の思い出と漱石への熱い思いを聞きながら、美味しいカツカレーを食べた後、最上階6階の甲板へ。雨上がりでしたが、夜の海の空気がとても気持ちよく、誰もいない甲板でマスクを外して思いっきり深呼吸してリフレッシュしました。部屋に戻ってテレビを見ながらゴロゴロしていると時刻の22時に静かに出港。瀬戸内海を航行することもあってほとんど揺れずに快適そのものでした。2<sup>3</sup>時ごろ自動販売機でアイスクリームを買いました。静かな船の最上階のロビーのソファに座って友人と2人で食べたアイスクリームはとても美味しく至福のひとつでした。

翌朝は早起きして甲板で深呼吸しようと思っておりましたが、6時の大阪南港到着までぐっすりでした。さらに港に到着後、2時間船内で休憩できたので8時頃まで快適な部屋で、いつかの松山旅行の話で盛り上がりながら下船しました。移動しながらゆったりとして時間を過ごせる船旅の魅力を再発見した<sup>1 2</sup>時間でした。